



【現地において基礎ブロックのアンカ
の強度を計測】

延命化・機能改善に威力

＝ 理研興業 ＝

防雪柵診断システム開発

県内でも長年実績のある防雪柵メーカーの理研興業(本社・北海道小樽市 柴尾耕三

社長)が開発した防雪柵診断システムが注目を集めている。

防雪柵は経済性・即効性・安全性を備えた有効な防雪施設として昭和30年代から整備が進められ、現在ではその効果を各管内で発揮している。

従来、防雪柵の耐用年数は15年程度とされていたが、設置箇所や部材別でも耐用年数が変化するため、更新時期の把握が困難だった。また、老朽化したものをそのまま放置すれば腐食による破損の危険が生じる。そのため、一斉更新には多額の費用が必要となる。

そこで、同社ではこれらの課題を解決する「防雪柵診断システム」を開発。更新必要度をランク分けし、効率的な更新計画を提案。さらに診断結果に基づく部分補修を行い、延命化・効果増幅・機能改

善を実現させた。

このシステムでは、鋼材曲げ試験、有限要素法による線形静解析、塩水噴霧試験、アンカー引張試験・写真

「ことにより、箇所別・部材別の耐用年数を明確化。診断に基づいた現地改良を実施する。耐用年数を見極め、更新の必要性を判断し、効果及び、機能改善を図ることによって、全

てを更新する従来の方法よりも大幅なコストダウンを可能にした。また、補修を行う際

に従来よりも一層の延命化を図れる新型防錆塗料「パーミエイト」も開発。この防錆塗料は有機溶剤(シンナー)を一切使用せず、溶剤揮発による塗膜欠陥の発生がない緻密な

塗膜を実現。さらには無機系ポリマーのため、高耐候性塗膜が得られるほか、主剤が隅ずみまで浸透し硬化するため、非常に高い付着力を実現する。

同社では「防雪柵診断システム」に基づき延命化は、現場で新品同様に見えるものを改良し、交換せざるをえないもののみを交換するた

めで、すべてを交換するよりも格段に経済的」と、そのメリットを説明している。さらに「これからは新しいものを作るだけ

でなく、低コストで施設を延命化させるメンテナンス業務にいかん寄与していけるかが重要」とし、基礎工におけるコンクリートの診断などにも力を入れていくとしている。

防雪柵診断システムについての問い合わせは、同社東北営業所 青森市古川1丁目10番13号(AQUA古川1丁目ビル2階) 電話 017-735-1188 FAX 017-735-2511まで。E-mail: rktoko@ku@rapid.ocn.ne.jp